

花開はなさき稲荷いなりのやしろ社は松原通高たかくら倉の西にあり。〔稲荷町いなりといふ〕此所は松永貞徳まつながていとくをう翁が居所にして、俳書御傘を撰す。

古宅立春といふ事を五条花開の家につりて

家 集

おのづから葎を門の松にみてあれたる宿の春にあふかな

貞 徳

五条花開の宿に会ありしに夕顔を

小車のむかしのたちと名にしおはゞそこぞと我に夕顔の花

同

五条の宿にて夢想むさう稲荷いなりの社やしろの蹟ありける歌人の此花さきの陰にきて

此所むかし花さきとこそいひ侍らめと歌意の思ひをなして

同

万代のみつのやしらの春秋は花さきみのれことのはの道